

登壇者プロフィール

星野 智子（ほしの ともこ）

大学卒業後、環境団体に就職、環境情報やイベント企画、国際会議運営などに従事する一方、青年の環境ボランティアや活動や全国ネットワークの立ち上げ、国際交流事業に関わる。2002年のヨハネスブルグ・サミット、「国連持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」推進運動、2008年のG8サミットにおける環境NGO活動、生物多様性条約市民ネットワークの立ち上げ・運営に参加。現在は地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)の運営を行うEPCの副代表理事を務める。Rio+20地球サミットNGO連絡会幹事、(特活)アフリカ日本協議会 理事、(特活)日本NPOセンター 評議員や農業体験学習企画の主宰など、市民活動に多く携わる。

熊沢 直美（くまざわ なおみ）

東京大学文学部美学芸術学卒。2007年よりウルトラテクノロジスト集団チームラボにてWebディレクター、2011年よりTEDxTokyoや地球サミット2012Japanのスタッフとして活動開始。世界の人が、偏見を越えてつながりあっていける仕組みづくり。そのための情報技術や、グローバルに人・ものを動かしている経済の仕組み、美学や文化に関心あり。

リオ+20は、「グリーンエコノミー」という会議のテーマがどのように貧困問題の解決および日本のこれからのライフスタイルを描くのか、グローバルな方向性&仕組みづくりに興味を持ち活動に参加。地球サミット2012ジャパンの副代表、また環境パートナーシップ会議にて65のNGO団体を結ぶリオ+20NGO連絡会事務局として、リオ+20に関する情報発信や、政府・メディアを含めた意見交換の場づくり、現地ロジなどを担当。

佐藤 正弘（さとう まさひろ）

2001年より内閣府。日本初の本格的マルチステークホルダー・プロセス(MSP)による「社会的責任に関する円卓会議」を発案・創設。慶応大学非常勤講師、金融庁課長補佐(排出量取引担当)等を経て、2011年8月より現職。2010年に非営利ネットワーク「地球サミット2012Japan」を創設し、国連の準備プロセスへの参画や政府への提言活動に取り組んだほか、CEPAジャパン理事など各種の環境活動に従事。専門は環境経済学。。

石崎 雄一郎（いしざき ゆういちろう）

地球サミットでうまれた持続可能な社会へ向けての行動計画であるアジェンダ21を京都市で推進するために、市民・行政・NPO・企業などさまざまなセクターとのパートナーシップのもと、環境のまちづくりのための施策をコーディネートしている。熱帯林保全のNGOでも活動しており、ウータン・森と生活を考える会/インドネシア植林担当、ボルネオ保全トラストジャパン理事。セヴァン・スズキとは同い年。

野口 扶美子（のぐち ふうみこ）

東京都葛飾区出身。津田塾大学在学中より、地元の国際理解教育や国際交流組織の立ち上げ・運営に関わる。シティバンク銀行勤務の後、渡豪。グリフィス大学環境教育修士修了。7年間の在豪中、先住民アボリジニの文化的視点に根差したエコツアーの企画・実施、コミュニティラジオプログラムのディレクター、パースチョイス(出産の選択権)運動に関わる。帰国後より、認定NPO法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD-J)にて、アジアのNGOネットワーク構築、事例化・分析、政策提言を担当するほか、大学講師等を兼任。2011年7月よりロイヤル・メルボルン工科大学(オーストラリア)博士課程在学。